

看護の展開—事例2 長期入院例

看護目標と実際

第1期 入院から20病日

症状観察および身体管理開始、治療への導入期

#1 適切な栄養管理により、低栄養状態が改善する

実施

- 経口摂取が行えず、経管栄養を開始
- 経管栄養の濃度は0.5kcalから漸増
- 腹部症状および肝臓等のデータをモニタ
- チューブの挿入や満腹感についての訴えあり、必要性の説明
- 入院後1週間は床上安静
- 排泄や清潔ケアは全介助・本人のペースを尊重

結果

- 体重は徐々に増加、バイタルサインも改善、

#2 病棟の生活に慣れる

実施

- 医療機関への不信感がある可能性があり、入院当日からプライマリーNSが外来に迎えに行き、個室対応
- 親子に対し丁寧に説明
- 苦労に共感を示す
- 母親や本人のやりかたを尊重しつつも病院のやり方へと移行
- 車いすでの散歩開始

結果

- 患児はほとんど発語なし、母を通して意思表示
- 強迫的な儀式行為が中断されるとパニック
- 母子ともに徐々にコミュニケーション可能